

使用上の注意改訂のお知らせ

2026年2月  
アンジェス株式会社

早老症治療用剤  
ファルネシルトランスフェラーゼ阻害剤  
ロナファルニブ製剤

ゾキンヴィ®カプセル 50mg  
ゾキンヴィ®カプセル 75mg  
Zokinvy® capsules

劇薬、処方箋医薬品<sup>注)</sup>

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

この度、標記製品の「使用上の注意」を改訂いたしましたので、ご案内申し上げます。今後のご使用に際しましては、最新の電子化された添付文書をご参照くださいますようお願い申し上げます。

1. 改訂の概要

リオシグアトを「2. 禁忌」及び「10.1 併用禁忌」から削除し、「10.2 併用注意」に追記しました。

2. 改訂内容（下線部：改訂箇所）

改訂後	改訂前																								
<p><b>2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）</b> <b>2.1~2.2</b>（略） <b>2.3</b> 次の薬剤を投与中の患者：キニジン硫酸塩水和物、ベプリジル塩酸塩水和物、チカグレロル、エブレレノン、エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン、メチルエルゴメトリンマレイン酸塩、トリアゾラム、アナモレリン塩酸塩、イバプラジン塩酸塩、ベネトクラクス〔再発又は難治性の慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫を含む）の用量漸増期〕、イブルチニブ、プロナンセリン、ルラシドン塩酸塩、アゼルニジピン含有製剤、スボレキサント、タダラフィル（アドシルカ）、バルデナフィル塩酸塩水和物、ロミタピドメシル酸塩、リファブチン、フィネレノン、リバーロキサパン、アパルタミド、カルバマゼピン、ミダゾラム、アトルバスタチンカルシウム水和物含有製剤、シンバスタチン〔10.1、16.7.2 参照〕 <b>2.4</b>（略）</p>	<p><b>2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）</b> <b>2.1~2.2</b>（略） <b>2.3</b> 次の薬剤を投与中の患者：キニジン硫酸塩水和物、ベプリジル塩酸塩水和物、チカグレロル、エブレレノン、エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン、メチルエルゴメトリンマレイン酸塩、トリアゾラム、アナモレリン塩酸塩、イバプラジン塩酸塩、ベネトクラクス〔再発又は難治性の慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫を含む）の用量漸増期〕、イブルチニブ、プロナンセリン、ルラシドン塩酸塩、アゼルニジピン含有製剤、スボレキサント、タダラフィル（アドシルカ）、バルデナフィル塩酸塩水和物、ロミタピドメシル酸塩、リファブチン、フィネレノン、リバーロキサパン、<u>リオシグアト</u>、アパルタミド、カルバマゼピン、ミダゾラム、アトルバスタチンカルシウム水和物含有製剤、シンバスタチン〔10.1、16.7.2 参照〕 <b>2.4</b>（略）</p>																								
<p><b>10.1 併用禁忌（併用しないこと）</b></p> <table border="1"><thead><tr><th>薬剤名等</th><th>臨床症状・措置方法</th><th>機序・危険因子</th></tr></thead><tbody><tr><td>（略）</td><td>（略）</td><td>（略）</td></tr><tr><td>（削除）</td><td>（削除）</td><td>（削除）</td></tr><tr><td>（略）</td><td>（略）</td><td>（略）</td></tr></tbody></table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	（略）	（略）	（略）	（削除）	（削除）	（削除）	（略）	（略）	（略）	<p><b>10.1 併用禁忌（併用しないこと）</b></p> <table border="1"><thead><tr><th>薬剤名等</th><th>臨床症状・措置方法</th><th>機序・危険因子</th></tr></thead><tbody><tr><td>（略）</td><td>（略）</td><td>（略）</td></tr><tr><td>リオシグアト （アデムパス） 〔2.3 参照〕</td><td>リオシグアトの血中濃度を上昇させるおそれがある。</td><td>本薬の CYP3A 及び P-gp 阻害作用により、リオシグアトのクリアランスが低下することが考えられる。</td></tr><tr><td>（略）</td><td>（略）</td><td>（略）</td></tr></tbody></table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	（略）	（略）	（略）	リオシグアト （アデムパス） 〔2.3 参照〕	リオシグアトの血中濃度を上昇させるおそれがある。	本薬の CYP3A 及び P-gp 阻害作用により、リオシグアトのクリアランスが低下することが考えられる。	（略）	（略）	（略）
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																							
（略）	（略）	（略）																							
（削除）	（削除）	（削除）																							
（略）	（略）	（略）																							
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																							
（略）	（略）	（略）																							
リオシグアト （アデムパス） 〔2.3 参照〕	リオシグアトの血中濃度を上昇させるおそれがある。	本薬の CYP3A 及び P-gp 阻害作用により、リオシグアトのクリアランスが低下することが考えられる。																							
（略）	（略）	（略）																							

改訂後			改訂前		
<b>10.2 併用注意（併用に注意すること）</b>			<b>10.2 併用注意（併用に注意すること）</b>		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
ボセンタン水和物	(略)	(略)	ボセンタン水和物	(略)	(略)
リオシグアト	リオシグアトの血中濃度を上昇させるおそれがある。本剤との併用が必要な場合は、患者の状態に注意し、必要に応じてリオシグアトの減量を考慮すること。	本薬の CYP3A に対する阻害作用により、これらの薬剤の代謝が阻害される。	副腎皮質ステロイド剤 ブデソニド シクレソニド デキサメタゾン メチルプレドニゾロン	(略)	本薬の CYP3A に対する阻害作用により、これらの薬剤の代謝が阻害される。
副腎皮質ステロイド剤 ブデソニド シクレソニド デキサメタゾン メチルプレドニゾロン	(略)		(略)		
(略)			(略)		
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

### 3. 改訂理由

#### 厚生労働省医薬局医薬安全対策課長通知（令和 8 年 2 月 10 日付）による改訂

ロナファルニブとの相互作用によるリオシグアトの曝露量増加に伴う低血圧等のリスク最小化策（リオシグアトの開始用量・維持用量の減量、低血圧の症状及び徴候のモニタリング等）がなされることを前提に、リオシグアトとロナファルニブの併用は可能と判断されたため。

本剤の最新の電子化された添付文書は、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」からご確認ください。  
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>